

膵臓・胆管がん検査（MRCP）

膵臓がんは、発見が難しい疾患です。そのため膵臓がんと診断された時には病変が進行していることが少なくありません。腹部超音波検査は、腹部臓器の形態や異常を簡便に観察でき検診には有用な検査です。ただ、膵臓については腹部の奥、背中側にあるため、他の臓器や消化管のガスの影響を受けて、膵臓の全体が観察できないことが少なくありません。

MRI検査では膵臓、胆嚢、肝臓の撮影と特殊な撮影法で肝内胆管・総胆管・胆嚢、膵管の画像（MRCP）を得て、超音波検査では見えにくい膵臓と胆嚢・胆管の疾患の発見を目的としています。

* 検査前に消化管の影響を少なくするため、鉄を含んだ液体を150ml飲用していただきます。検査後一時的に便が黒っぽい下痢になることがあります。